第19回夢・未来熊谷ジュニア議会

【質問】 質問番号1　市長公室関係

議席番号1　　三尻中学校　佐藤（さとう）　小雪（こゆき）　議員

熊谷の魅力

　熊谷市には、雪くまや五家宝、熊谷うどんなどの特産品や、妻沼聖天山などの有名な場所が多くあります。しかし、ほかの市や県の人にはあまり知られていないと感じます。市のホームページや SNS でも、熊谷の魅力は発信していますが、高齢者の方や SNS をあまり利用しない人は、見る機会が少ないと思います。

　そこで、熊谷の魅力についてまとめたポスターや広告を、人目につく駅やショッピングモールに提示するのはいかがでしょうか。

議席番号2　　大里中学校　山下（やました）　杏樹（あんじゅ）　議員

熊谷の姉妹都市

　現在、熊谷の姉妹都市のことを知っている人は、私の学年の中では数人しかいません。私は、熊谷の姉妹都市である、ニュージーランド インバーカーギル市について全員が興味を持つことが理想であると考えます。

　そこで、今は年に 1 回のホームステイプログラムの募集チラシを定期的に発行し、実際にニュージーランドを訪問した人の講演会を聞いたりする場を設けてはいかがでしょうか。

議席番号3　　吉岡中学校　内田（うちだ）　明花里（あかり）　議員

適切に行動するために

　日本はとても地震が多い国です。そのため、熊谷市でも頻繁に地震が起こります。もしかしたら、この先、とても大きい地震が起こるかもしれません。そのようなとき、慌てずに対応できるよう、対処法をまとめたポスターを掲示したり、パンフレットを配布してはいかがでしょうか。

【答弁】 市長公室関係

市長

佐藤小雪議員さん、山下杏樹議員さん、内田明花里議員さんの質問に、私から全般的にお答えします。

はじめに、佐藤さんの「熊谷の魅力」についてですが、熊谷市を訪れる方へのおもてなしの充実と市の情報発信力を強化するため、今年度中に熊谷市観光協会を熊谷駅構内に移転し、観光案内所も新たに整備することとしました。

これにより、熊谷の誇る観光名所やイベントの発信、特産品の販売などを行うことができ、「熊谷の魅力」をより多くの方にご紹介できると考えています。

これからも、積極的に情報発信を行い、シティプロモーションに取り組んでいきます。

次に、山下さんの「熊谷の姉妹都市」についてですが、熊谷市とニュージーランド・インバーカーギル市との交流は、外務省及びニュージーランド大使館から熊谷市に対し、姉妹都市に関する照会があり、昭和63年の秋から始まりました。その後、数回の視察を重ねると同時に、学生間での交流等も行われ、平成5年4月に姉妹都市の締結をし、令和5年1月には30周年の調印を行いました。現在、熊谷市国際交流協会のご協力のもと、毎年のように行政・教育・文化・スポーツ・ 産業等、各方面で活発な交流を行っており、遠い海を越えた両市の友好の絆は、一層深まっています。

これからも、熊谷市中高生ホームステイプログラムをはじめとした、国際・国内交流と多文化共生を推進していきたいと考えています。

次に内田さんの「適切に行動するために」についてですが、近年、自然災害が激甚化・頻発化しており、日本各地で甚大な被害が発生しています。本年8月8日には、日向灘を震源とするマグニチュード7．1の地震が発生し、「南海トラフ地震臨時情報（巨大地震注意）」が初めて発表され、日頃からの地震への備えの再確認に加え、地震が発生したらすぐに避難するための準備について国から呼びかけがありました。

埼玉県においても、「南海トラフ地震」が発生した場合、震度5弱から5強程度の地震が想定されていることから、熊谷市では、大規模地震の備えについて、ホームページや市報、防災ハザードマップ等を活用し、周知啓発を行っているところです。

今後も引続き、より効果的な方法で、防災の取組を進めていきます。

市長公室長

続きまして、佐藤小雪議員さんの「熊谷の魅力」についてお答えします。

熊谷市では、市の魅力を「見つける、創る、磨く」活動や、市内外に情報を発信する活動など、熊谷市の価値やイメージを高める活動をシティプロモーションとして定義し、それらの活動によって、「熊谷市のファンを増やす」ことを目的に事業展開しています。

現在、熊谷市の特産品や有名な場所などを紹介したプロモーション動画や市のPRパンフレット、ロゴの作成に着手しており、今後整備される観光案内所など、多くの方の目に触れる場所で積極的に活用していきたいと考えています。

ぜひ、中学生の皆さんにも、熊谷市のファンとして市の情報を発信するなど、シティプロモーションの取組にご協力いただきたいと考えています。

続きまして、山下杏樹議員さんの「熊谷の姉妹都市」についてお答えします。

熊谷市は熊谷市国際交流協会のご協力のもと、姉妹都市交流事業を行っています。その内の一つに、「熊谷市中高生ホームステイプログラム」事業があり、今年も、中学生14人、高校生10人、合計24人の生徒と3人の引率者が、本年7月23日から8月5日までの日程で、インバーカーギル市にてホームステイを実施しました。参加者の募集に当たりましては、市内全ての中学校・高校を訪問し、周知をお願いしていますが、毎回、募集開始から瞬く間に定員に達するなど、関心の高さが伺えますので、定期的な募集チラシの発行については考えていません。

また、姉妹都市に興味を持っていただくために、実際にニュージーランドを訪問した人の講演会の場を設けることについては、「経験に勝るものなし」という言葉があるように、山下さんの理想を実現するための、最も効果的な伝達方法で、大変有意義であると考えています。

まずは参加された皆さんが、ご自身の学校で報告会などを行うことで、インバーカーギル市の魅力を伝えていただきたいと思います。

危機管理監

続きまして、内田明花里議員さんの「適切に行動するために」についてお答えします。

大規模地震が発生した際に慌てずに対応できるようにするためには、事前の備えが重要です。

例えば、迅速な避難態勢や準備として、避難場所や避難経路を確認しておく、家族との連絡手段を決めておく、食料・水・常備薬・携帯ラジオ等の非常持出品を準備しておく等の他、火災の防止対策として、漏電遮断器や感震ブレーカーを設置する、室内の対策として、窓ガラスの飛散防止や家具の転倒防止等があり、熊谷市では、事前の防災対策として、ホームページ等で周知しています。今後、更に、幅広い世代の市民の皆様に防災について知ってもらうため、 内田さんの提案であるポスターの掲示やパンフレットの配布について検討するとともに、新たな取組として、熊谷駅前広場 PR サイネージを活用し周知啓発を行っていきます。

【質問】 質問番号2 総合政策部関係

議席番号4　妻沼東中学校　増田（ますだ） 智文（ともふみ） 議員

住み続けたいと思える熊谷市に

私が住んでいる地域は、熊谷市の中でも店舗が少なく、アクセスもいいといえる状態ではないと思います。自分自身、将来熊谷市に住み続けるイメージがあまり持てていない現状です。熊谷市の学生たちがもっと将来のイメージを持ち熊谷市に住み続けたいと思えるようにするために、アクセスや店舗などといった利便性を上げる取組がされるといいと思います。市としての取組や、今後の計画がありましたら教えてください。

議席番号5　奈良中学校　吉岡（よしおか） 夢莉（ゆめり） 議員

市内循環バスを上手に利用するために

熊谷市では現在、さくら号やひまわり号、ムサシトミヨ号など熊谷ならではの名前がついた、市内循環バス『ゆうゆうバス』が運行しています。

しかし、私が住んでいる奈良地区は運行エリアには入っておらず、まだ一度も「ゆうゆうバス」に乗車したことがありません。

そこで提案があります。まだ熊谷市内で、「ゆうゆうバス」が運行していない地域に、徐々に運行エリアを拡大していくのはいかがでしょうか。

議席番号6　荒川中学校　藍（あい） 惺慈（せいじ） 議員

市民体育館での熱中症について

最近、熱中症で病院に運ばれている方が多いと思います。私は、剣道部に入っていて、よく体育館などで試合や練習をすることがあります。しかし、みんなが暑いと言っていて、違うチームの人で、倒れてしまった人もいました。

そこで、体育館での暑さ対策をしてもらえないでしょうか。検討していただけるとうれしいです。

議席番号7 玉井中学校　吉原（よしはら） 快（かい） 議員

熊谷市のスポーツチームについて

熊谷市には、多くのスポーツチームがあります。その中でも 4 つのチームが参加しているスタンプラリー企画があります。熊谷市内のスポーツを盛り上げるために行われているはずですが、その取組が友人や家族、スポーツに興味・関心がない人に浸透しきれていないように感じます。私たちのような中学生がスタンプラリーに興味を持って参加するには、保護者の同伴、許可が必要なので、大人たちへの PR が大切なのではないでしょうか。そこで、選手にも協力してもらい、公民館などの地域の施設などでスポーツイベントを開催するのはいかがでしょうか。

【答弁】 総合政策学部関係

市長

増田智文議員さん、吉岡夢莉議員さん、藍惺慈議員さん、吉原快議員さんの質問に、私から全般的にお答えします。

はじめに、増田さんの「住み続けたいと思える熊谷市に」ですが、現在、全国的に人口減少や高齢化が進み、多くの都市で利用者の減少に伴うバスの便数の減少や空き店舗の増加など、日常生活における不便さが進んでいます。

熊谷市においても少子高齢化は進行しており、バスをはじめとした公共交通などの移動手段の確保や市民生活の維持は、重要な課題となっています。

そのため、市民生活に必要な店舗と住まいなどが近くにまとまっていて、市民が徒歩やバスなどの公共交通で買い物に行くことができる、生活に便利な住みやすいまちづくりを目指しています。

次に、吉岡さんの「市内循環バスを上手に利用するために」ですが、ゆうゆうバスは、民間路線バスなどが走っていない地域を中心に、交通弱者といわれる高齢者や障害者の方などの移動手段を確保するため、平成11年10月から運行しています。

しかし、近年は、燃料費の値上がりやバス運転士が不足するなど、運行を続けていくことが大変厳しく、吉岡さんから提案いただいた運行エリアの拡大については難しい状況にあります。

このような中でも、ゆうゆうバスの運行を続けていくとともに、利便性を高められるような効果的な仕組みを検討していきたいと考えています。

次に、藍さんの「市民体育館での熱中症について」ですが、熊谷市は日本一の最高気温を記録するなど、「暑い」というイメージがついて回るものと思いますが、そこで暮らす市民の方や観光などで訪れる方のために、様々な熱中症対策を進めてきました。

藍さんご指摘の市民体育館ですが、メインア リーナは空調設備がなく、空調のある他の部屋を開放するなど熱中症対策を行い、事故が起きないようにご利用いただいています。

市民体育館は、令和7年で築60年を迎えるなど老朽化が進んでいますので、現在建替えに向けた準備を進めています。

新しい体育館には空調設備を設け、よりスポーツのしやすい環境を整える予定ですので、 完成までもう少しお待ちください。

次に、吉原さんの「熊谷市のスポーツチームについて」ですが、熊谷スポーツ文化公園など、 市内には充実したスポーツ施設があることから、現在4つのプロスポーツチーム等が熊谷市を拠点に活動しています。

現在、チームを盛り上げ、試合の観客数増加を目指し、各チームと連携したスポーツスタンプラリーなど、各種取組を実施しています。

これからもスポーツチームの応援をきっかけに、多くの方が訪れるまちとなるよう、取組を進めていきますので、吉原さんも、ぜひご家族やお友達を誘って、観戦してください。

副市長

続きまして、増田智文議員さんの「住み続けたいと思える熊谷市に」についてお答えします。

これまで熊谷市では、生活に便利な住みやすいまちづくりに向けた取組として、新たにお店を開く方に対し、空き店舗等を活用した開業支援による、にぎわいのある商店街づくりなどを行っています。

また、現在では、市内の加盟店での買い物に利用できる地域電子マネーの「クマ PAY」や、協力団体が提供するサービスや記念品と交換できるコミュニティポイントの「クマポ」などによる地域の活性化や、ゆうゆうバスをキャッシュレスで利用できるスマホバス回数券など、デジタル技術を活用し、利便性の向上に取り組んでいます。

さらに、熊谷市と民間企業や地域住民などが連携し、ワークショップや計画の策定にも取り組んでおり、まちの課題解決に対し、ともに力を合わせて魅力あるまちづくりを進めています。

これからも、熊谷市に住み続けたいと思えるように、さまざまなニーズに柔軟に対応できるような取組について、研究していきたいと考えています。

総合政策部長

続きまして、吉岡夢莉議員さんの「市内循環バスを上手に利用するために」 にお答えします。

ゆうゆうバスは、主に交通空白・不便地域と言われる民間路線バスなどが走っていない地域の移動手段として、多くの方々に御利用いただいていますが、市の面積が広いため、市内全ての移動ニーズに対応できていない状況です。

また、令和6年4月１日から運転士の働き方改革が行われたことに伴い、バス運転士の不足に拍車がかかり、ゆうゆうバスについても運行本数の減少などダイヤの見直しも行ったところです。

このような中でも、ゆうゆうバスの運行を続けていくため、利用者の移動ニーズに対応できるよう利便性の高いルートの編成や、AI を活用し、最適な運行ルートを実現する「AIオンデマンド交通」などの新たな移動手段の導入についても検討しているところです。

続きまして、藍惺慈議員さんの「市民体育館での熱中症について」にお答えします。

はじめに、市民体育館の柔剣道場には空調設備が整備されていますので、暑い時期でも快適に利用できますが、空調設備が整備されていないアリーナでは、冷房が効いている会議室を無料で開放しているほか、冷水器を利用いただき休憩してもらうなどの熱中症対策を行っています。

これからも、館内放送にて水分補給や休憩を促すなど、熱中症対策を講じていきます。

なお、市民体育館につきましては、施設の老朽化が進んでいることから、建替えを検討しており、新しい市民体育館にはアリーナを含め空調設備を導入する予定ですので、完成した際には、ぜひ利用してください。

続きまして、吉原快議員さんの「熊谷市のスポーツチームについて」お答えします。

現在、ラグビーの埼玉パナソニックワイルドナイツ、女子サッカーのちふれASエルフェン埼玉、野球の埼玉武蔵ヒートベアーズ、女子ラグビーのアルカス熊谷の4チームが熊谷市を拠点に活動しており、試合会場へ足を運んでもらうため、各チームと連携して様々な企画に取り組んでいます。吉原さんから質問いただいた、スポーツスタンプラリーですが、より多くの皆様に参加いただけるよう、市内小・中学校の全児童・生徒へチラシを配布したほか、市公式アプリのクマぶらやX等のSNSを使ったお知らせをしています。

また、今年の 10 月 1 日からは、熊谷市に転入してきた方を対象に、各チームの試合を観戦できる招待チケットを配布する取組も始めています。吉原さんから提案いただいた大人たちへのPRとして、公民館などでのスポーツイベントの開催は非常に良いアイディアですが、チームや選手とのスケジュール調整が難しいこともあり、大きな会場でのイベント開催が中心となっています。

プロスポーツチームが身近にある環境は、熊谷市の魅力の一つですので、直接選手と触れ合える機会を増やすとともに、大人たちが興味を示す内容の情報発信を強化していきますので、ジュニア議員の皆さんも、ぜひご家族と観戦してください。

【質問】 質問番号3　市民部関係

議席番号8　妻沼西中学校　高橋（たかはし）　和沙（かずさ）　議員

活気のあるまちを維持するには

こどもの数が減り、学校の統廃合が進んでいます。仕方のないことですが、自分のふるさとが寂れていってしまうのはとても悲しいことです。人口が増えていつまでも活気あるまちであってほしいと考えています。そこで、お祭りだけでなく、日常でも地域で関われるようになる施設やフリーマーケットなどの催し物を増やしてはいかがでしょうか。企画の段階から地域の様々な年代の人に参加してもらえば地域のつながりが強くなり、盛り上がると思います。

議席番号9　富士見中学校　櫻井（さくらい）　莉心（りこ）　議員

自転車の盗難を減らすために

熊谷市で1番起こっている犯罪は自転車の盗難だそうです。令和5年では245件もの盗難があり、令和4年からは80件も増加しています。また、盗難された自転車のうちの6割は鍵をかけていない自転車だそうです。私は、盗難の心配なく自転車を使用したいですし、市民の皆さんにも安心してほしいです。そこで、自転車の鍵かけや不審者の通報を呼びかけるポスターを駐輪場などに掲示するのはどうでしょうか。また、市内の学校の美術部などに協力を頼み、ポスター作成を依頼することも良いのではないでしょうか。部活動の活動を市民の皆さんに知ってもらえるとともに、盗難数が減少したら一石二鳥ではないですか。

議席番号10　江南中学校　持丸（もちまる）　結凪（ゆな）　議員

自転車置場の設置について

熊谷市内には自転車置場の少ないところやないところがあります。そのため、歩道にある点字ブロックの上に自転車が置かれてしまっていたり、公園やバス停の近くの道路に自転車が置かれていたりすることがあります。これらは、通行の妨げになり危険です。自転車置場が整備されることで、誰にも迷惑がかからないようにしたいです。一定の間隔でサイクルポートなどの自転車置場を設置し、公園や主要のバス停などにも自転車置場を設置するというのはどうでしょうか。

議席番号11　熊谷東中学校　田口（たぐち）　蓮（れん）　議員

市民の健康について

街中で、たくさんの人たちが歩いているのを見かけますが、学生や若い人たちばかりで、高齢の方が歩いているところをあまり見かけず、健康面を心配しています。

そこで、高齢の方の健康増進を目的にスタンプラリーを実施するのはいかがでしょうか。

議席番号12　玉井中学校　篠田（しのだ）　優奈（ゆうな）　議員

一人ひとりの悩みと向き合うためには

近年、中学生に限らず、悩みを多く抱えている人が増えているように感じます。中学校では、利用すること自体が負担に感じてしまう人もいると思いますが、相談室や保健室などの場所があります。一方で、働いている人は、相談できる場所が少ないように思います。そこで、同じ悩みを持った人たちが気軽に集まれるような相談会を開いたり、定期的に家を訪問しカウンセリングや学習ができるような取組を企画する施設や団体を作ったり、募集したりするのはいかがでしょうか。

【答弁】 市民部関係

市長

高橋和沙議員さん、櫻井莉心議員さん、 持丸結凪議員さん、田口蓮議員さん、 篠田優奈議員さんの質問に、私から全般的にお答えします。

はじめに、高橋さんの「活気のあるまちを維持するには」についてですが、市内には各小学校区単位で組織される校区連絡会があり、統廃合があった小学校区でも統廃合前の区域で活動しています。校区連絡会は自治会、小学校、PTAなど地域の各種団体で組織され、地域の方々が自主的・自発的に地域の課題を解決する活動を行っており、お祭り以外にも 様々なイベント等を企画し取り組んでいます。

高橋さんも御家族や御友人とアイデアを出し合い、PTAの方を通じて提案するなどし盛り上げていっていただければと思います。

次に、櫻井さんの「自転車の盗難を減らすために」ですが、熊谷市の犯罪発生件数は、コロナ禍の収束に伴い、増加傾向にあります。

その中でも、櫻井さんの指摘のとおり、自転車の盗難は一番多く発生しており、皆さんにとって身近な犯罪となっています。

自転車から離れるときは、二重にロックをかけるなど、防犯対策をお願いします。

熊谷市では、皆さんが安全で安心して暮らせるまちづくりのため、熊谷警察署と連携し、犯罪を抑止する効果のある防犯カメラの設置や、登下校の見守り等の防犯活動を支援しています。これからも、犯罪のないまちの実現を目指し、防犯意識の向上と犯罪の起こりにくい環境の整備を推進していきたいと考えています。

次に、持丸さんの「自転車置場の設置」についてですが、身近な交通手段である自転車は、健康志向の高まりや、二酸化炭素を排出せず、環境に優しく温暖化対策に有効な乗り物であることから注目が集まり、利用者が増えています。一方で、自転車利用者のルール違反やマナーの悪さによる事故も発生しています。

また、車いすの利用者や目の不自由な方にとっては、放置自転車は危険な障害物になり、重大な事故が発生する可能性もあります。

そのため、熊谷市では、多くの放置自転車があった熊谷駅周辺で、係員による指導や撤去を行うなどの対策を行い、徐々に放置自転車の状況が改善しています。

これからも引き続き、 放置自転車対策に取り組んでいきたいと考えています。

次に、田口さんの「市民の健康について」 ですが、高齢者の方が元気で健康に暮らせることは、非常に重要であると考えます。

熊谷市では、高齢者の方の健康の保持・増進を図るため、ニャオざね元気体操や健康教室を実施しているほか、埼玉県と共同の取組として 「コバトンALKOOあるこうマイレージ」を実施しています。

また、市内には、様々なウオーキングコースも用意してありますので、体力に合わせて市内各所を巡りつつ、景色等もお楽しみいただきながら健康増進につなげていただきたいと思います。

そして、これからも引き続き、皆さんが健康でいられる取組を進めていきたいと考えています。

次に、篠田さんの「一人ひとりの悩みと向き合うためには」ですが、令和5年に実施した国の調査によると、悩みや不安を感じている方の割合は75.9％で、まさに4人に3人が悩みを抱えていることになります。その内容は、「家族」「仕事」「健康」「経済的な問題」など様々で、複雑に関係しているため、解消するには、様々な分野の人々や組織が密接 に連携する必要があります。悩みの内容によっては相談窓口・相談先を知ることによって解決できる糸口が見つかるかもしれません。一人で悩まず、相談いただけるよう、様々な悩みや心配なことを相談できる 「悩みを相談できる窓口案内」をホームページに掲載していますので、困った時には相談していただきたいと思います。

市民部長

続きまして、高橋和沙議員さんの 「活気のあるまちを維持するには」についてお答えします。

熊谷市内には統廃合前の小学校区を単位とした30の校区連絡会があり、地域の方々が自主的・自発的に地域の課題を解決する活動に取り組んでいます。

校区連絡会は自治会、小学校、PTAのほか公民館、青少年健全育成会、子ども会、長寿会など小学校区内の各種団体が連携しながら活動を行っています。活動内容は各校区連絡会 により異なりますが、主なものとして登下校の見守り活動、花いっぱい運動、グラウンド ゴルフ大会などの世代間交流行事のほか、芸術音楽鑑賞会、農業体験や地域伝統行事伝承活動など地域の特色も活かしながら幅広く様々な活動を行っています。

このような活動に若い皆さんが少しでも興味を持ち、参加しやすくなるよう高橋さんの提案のように企画段階から地域の幅広い様々な年代の方々に参加していただければ、活気のあるまちづくりにつながっていくと思いますので、校区連絡会の関係者にも伝えていきたいと考えています。

続きまして、櫻井莉心議員さんの「自転車の盗難を減らすために」についてお答えします。

熊谷市では、自転車の盗難の防犯対策として、熊谷警察署と協力し、自転車の鍵かけを呼びかける啓発チラシを、市報と一緒に配布しています。また、熊谷駅前などで、盗難防止のためのワイヤーロックを配付するなどの街頭キャンペーンを行い、皆さんに注意喚起を行っています。

櫻井さんから提案がありましたポスターの掲示につきましては、毎年、熊谷警察署と熊谷市で組織した「熊谷防犯協会」を通じて、市内の小中学生から防犯に関するポスターを募集していますので、美術部の皆さんも積極的に参加していただきたいと思います。

応募いただいた中から優秀作品として選出されたポスターを、安心安全な地域社会の実現や、皆さんの防犯意識の向上のため、熊谷駅や熊谷駅自転車駐車場に掲示し、犯罪の起こりにくい環境づくりに努めていきます。

続きまして、持丸結凪議員さんの「自転車置場の設置」についてお答えします。

自転車が歩道に放置されることは、身体の不自由な方や車いすの利用者にとって、通行の妨げとなり大変危険です。また、倒れた自転車が、車道へはみ出してしまうと、火災などの災害発生時に、消防車両の通行や救助活動がスムーズにできなくなるなどの問題が発生します。さらに、周辺環境の悪化にも繋がる心配があります。

自転車置場の設置は、各施設の管理者が自ら用意するのが原則ですが、公共交通の拠点となる熊谷駅や籠原駅などには、熊谷市が自転車置場を整備しています。

バス停や公園の自転車置場については、土地を確保できた場所については自転車置場を設置しているところもありますが、新たに設置するためには、土地を買わなければ

ならないなど難しい面があります。
そのため、まずは、道路に自転車を置かないようマナーの啓発を行うなど、できる対策から取組んでいきたいと考えています。

続きまして、田口蓮議員さんの「市民の健康について」にお答えします。
熊谷市では、現在、市内在住の 18 歳以上で、スマートフォンをお持ちの方が参加できる「コバトンALKOO（あるこう）マイレージ」を実施しています。これは埼玉県と共同の取組で、参加登録をし、アプリをダウンロードしたスマートフォンを持って歩くと、歩数は自動で記録され、歩数に応じて貯まったポイントにより3か月に1回行われる抽選に参加できます。散歩ルートや日陰マップなど、楽しく取り組める機能もついています。また、抽選は埼玉県が行うもののほか、市民の方を対象に、熊谷市でも行います。
田口さんに提案いただいたスタンプラリーについては、熊谷市では、現在、全市民を対象としたスポーツスタンプラリー等以外で、高齢者の健康増進を目的としたスタンプラリーは実施していませんが、「コバトンALKOOマイレージ」も、毎日楽しみながらウオーキングに取り組める工夫がされていると考えています。そして、この取組は、実は 60 歳代、70 歳代の割合がとても高い状況です。
「コバトンALKOOマイレージ」について、熊谷市では、もっと多くの方に参加していただきたいと考えています。御家族や近所の方など、身近な 18 歳以上の方に、ぜひ皆さんからも声をかけてくださるようお願いします。

続きまして、篠田優奈議員さんの「一人ひとりの悩みと向き合うためには」についてお答えします。
熊谷市では、市ホームページ「こころの健康メンタルヘルス～あなたは今、悩みを抱えていませんか～」の中で、様々な悩みの相談窓口を掲載していて、働く人や若者、御家族・教職員向けの国のサイトの他、埼玉県ホームページの労働相談センターも案内しています。
悩んでいる方の悩みの内容は様々であり、相談する人の中には誰にも知られたくない気持ちを持つ人もいることから、現在、熊谷市では同じ悩みを持った人達が集まれる、働いている人向けの相談会については実施していませんが、一人ひとりに合ったきめ細やかな支援をするため、個別の相談を実施しています。また、心の健康についての講演会等を開催し、同じ悩みを持つ方やその御家族、関心のある市民の方に参加していただき、悩みを一人で抱えず相談・支援を利用することを伝え、継続的な支援が必要な方には、家庭訪問を実施しています。
篠田さん提案の訪問・カウンセリング・学習等の企画をする団体の募集については、とてもよい提案だと思いますが、カウンセリング等については専門的な知識や資格を持ったカウンセラーが必要であったり、課題も多いことからすぐに対応することは難しいと考えます。
これからも、市民の皆さんが必要な時に適切な相談が受けられるよう、情報の提供や支援を行っていきたいと考えています。

【質問】 質問番号4　福祉部関係

議席番号13　別府中学校　風間（かざま）　悠希（はるき）　議員

タクシーについて

熊谷市では、免許返納者に対し、民間バス割引やゆうゆうバス無料など、高齢者対策がされています。

また、今年から 65 歳以上の高齢者で、要介護1以上の方に対してタクシーの利用料金助成が始まりました。

要介護1以上の高齢者だけではなく、例えば「病院への送迎をしてもらえる人がいない方」などへの対策として、高齢者タクシー助成事業の対象者拡大や助成金の増額を実施してはどうでしょうか。ぜひ、高齢者タクシー助成事業の充実について検討してください。

議席番号14　妻沼西中学校　根岸（ねぎし）　稜河（りょうが）　議員

少しでも買い物を楽に

現在の日本では高齢の方がとても増えており、体を上手く動かせない人もいます。私の祖母の友人も足腰が痛くて買い物が辛いと言っていました。だから、私は高齢者の方たちが少しでも楽に買い物ができるような取組が必要だと思いました。例えばタクシーやバス、宅配サービスを誰でも利用しやすいようにしたり、近くの中学校と連携し、ボランティア活動の一環として買い物を委託するのはいかがでしょうか。

【答弁】 福祉部関係

市長

風間悠希議員さん、根岸稜河議員さんの質問に、私から全般的にお答えします。

初めに、風間さんの「タクシーについて」 ですが、高齢者が自由に買い物や通院ができるように、移動手段の確保が必要であると認識しており、これまで、民間バス路線の維持や、ゆうゆうバスの再編などを検討しながら実施してきました。そのような中、要介護高齢者福祉タクシー利用料金助成事業を本年6月から開始し、高齢者が移動手段を選択する幅が広がったと考えています。これからも、この事業の充実をはじめ、乗り合いの公共交通を効率的に運行する「AI オンデマンド交通」の導入などを検討しながら、高齢者の方が住みよい街づくりを目指していきたいと考えています。

次に、根岸さんの「少しでも買い物を楽に」 についてですが、先ほど風間さんへお答えしました、高齢者の移動手段を確保することに加えて、買い物支援として現在行われている移動販売の協力企業を増やし、エリアや販売場所の拡大に取り組んでいます。これからも、高齢者の方がどの地域にお住まいでも買い物を気軽にできるような取組を進めていきたいと考えています。

福祉部長

続きまして、風間悠希議員さんの「タクシーについて」にお答えします。

要介護高齢者福祉タクシー利用料金助成事業は、介護が必要な高齢者の通院など日常生活の利便を図るため、タクシーの利用料金の一部を助成する制度として、今年の6月から始まりました。

支給対象者は、要介護認定による要介護1から5までの認定を受けた 65 歳以上の方で、所得が非課税世帯の方です。

申請されますと、タクシー利用券が交付され、1回の乗車につき、初乗り運賃 500 円分として1枚、又は、運賃が 1,000 円以上の場合は 2 枚まで使用できます。使用できる枚数は、年間で、今年度は6月からのため 30 枚ですが、来年度からは 36 枚となります。

風間さんから提案がありました事業の充実については、始まって間もないことから、まずは、利用状況などを確認し、タクシー会社などと協議しながら、取り組んでいきたいと考えています。

続きまして、根岸稜河議員さんの「少しでも買い物を楽に」についてお答えします。

熊谷市では買い物に行くことが困難な方への支援の一つとして、熊谷青果市場青果商組合を中心とした「あんしん市場」や、株式会社カスミによる「カスミ移動スーパー」などの移動販売があります。また、今月から新たにウエルシア薬局株式会社の移動販売が加わり、これにより市内全域をカバーできるようになりました。

これからも高齢者が住み慣れた地域で安心して暮らすことができるよう、今回いただきました提案も含め、様々な支援の方法について検討していきたいと考えています。

【質問】 質問番号5 環境部関係

議席番号15　三尻中学校　紺野(こんの) 凛人(りんと) 議員

グリーンカーテンの活用について

現在、地球温暖化が深刻化しています。そして熊谷市は日本で一番暑いまちです。数年後には熊谷のような気候が全国的に広がっていくと予想されます。そこで今、熊谷市でやっている暑さ対策であるグリーンカーテンをもっと広めていけばいいと思います。例えば市立図書館や市の公民館などに設置するのはどうでしょうか。

議席番号16　江南中学校　中山(なかやま) 知輝(ともき) 議員

太陽光パネルについて

近年、熊谷市内でも太陽光パネルの設置が増えてきたように感じます。パネル設置は、環境保護に貢献する一方で、その周りの景観を損なう可能性がある場合、どのようなバランスをとっているのかが知りたいです。例えば自然景観を損なわないようなデザインや配置の工夫など、具体的な対策を伺いたいです。

議席番号17　荒川中学校　大江(おおえ) 百花(ももか) 議員

ごみの収集について

熊谷市では、環境美化活動の一環として、市民が主体となってリサイクル活動が行われています。

しかし、ゴミの日のゴミ捨て場があふれていたり、お祭りや、日常生活の中で、ポイ捨てされていたりしています。そこで、カン、ビン、ペットボトルの日を増やすことはできないでしょうか。また、そのゴミでリサイクルをすることで熊谷市の活動が見える化するのではないでしょうか。

議席番号18　大原中学校　金子(かねこ) 龍乃介(りゅうのすけ) 議員

ゴミ問題について

私が住んでいる地域では、たまにペットボトルなどのごみが落ちていることがあります。ゴミがなく気持ち良く過ごせるようになるためには、少しでも多くの人に協力してもらいゴミをなくす必要があります。そこで、たくさんの人にゴミ拾いをしてもらうために、年に数回市全体でゴミ拾いのイベントを開催してみてはどうでしょうか。また、イベントの内容としては、拾った物に応じてポイント制にし、それに応じて景品を配布するのはどうでしょうか？

議席番号19　大幡中学校　新島(にいじま) 陸生(りく) 議員

ごみ処理場について

私は熊谷のごみ処理場はとても優秀だと聞きました。なんでも燃やすことができるとのことですが、本当になんでも燃やして大丈夫なのか、もし、それが本当なら、全国はなぜ、同じようにしないのだろうか。

【答弁】 環境部関係

市長

紺野凛人議員さん、中山知輝議員さん、大江百花議員さん、金子龍乃介議員さん、新島陸生議員さんの質問に、私から全般的にお答えします。

はじめに、紺野さんの「グリーンカーテンの活用について」ですが、グリーンカーテンは夏の強い日差しを遮り、室内の温度を下げる効果や、地球温暖化の原因の一つでもある二酸化炭素を吸収する効果があります。

熊谷市は日本一暑いまちといわれていますが、紺野さんの指摘のとおりこの暑さは全国、さらには地球規模のものとなっており、グリーンカーテンの活用は、エアコンなどのエネルギー利用に伴う、環境負荷の削減に重要な方法の一つだと思います。熊谷市内の小中学校では、みどりのカーテンコンテストが毎年行われていますが、令和5年度は、紺野さんの通う三尻中学校が、中学校部門で最優秀賞に選ばれています。引き続き、グリーンカーテンを通して、省エネや環境問題について学べるような取組を続けていきたいと考えています。

次に、中山さんの「太陽光パネルについて」 ですが、熊谷市では、昨年度、太陽光発電設備を設置する際の手続きを定めた条例を作りました。景観や生活環境を守るために、抑制区域を設け、無秩序に森林を切り開き設置することなどが無いよう、設置される方へお願いをしています。太陽光発電などの再生可能エネルギーの普及は、熊谷市のゼロカーボンシティの実現に必要なものですが、自然環境や地域との共生を図りながら、皆さんが安心して暮らせるよう、進めていきたいと考えています。

次に、大江さんの「ごみの収集について」ですが、日本の廃棄物処理の歴史を紐解いてみると、21 世紀に入り、それまでの大量消費社会を脱却し、循環型社会への転換が図られてきました。

このような流れの中、資源循環の主要指標としてリサイクル率が活用されており、今年の3月に発表された令和4年度における日本のリサイクル率は 19.6%となっています。まだまだ伸びしろのある、リサイクル率ですが、これを更に高めるためには、まずは、紙や布などの資源物をしっかりと分別し、焼却処理せずにリサイクルすることが大切です。

皆さんも、リサイクルに対する関心を、もっともっと高めていただき「捨てればごみ、分ければ資源」ということを常に意識して欲しいと思います。

次に、金子さんの「ゴミ問題について」ですが、現代社会において、環境問題は深刻さを増しており、環境への負荷を低減する循環型社会の実現に向けた取組を推進することが求められています。

これは大量生産、大量消費、大量廃棄型の社会経済システムを見直し、資源の循環的な利用を進め、天然資源の消費を抑制していくということです。

熊谷市では、このような循環型社会の実現に向けて、リフューズ(拒否)、リデュース(減量)、リユース(再利用)、リペア(修理)、リサイクル(再生)を推進する5R の取組に力を注いでいます。

これらを推進するには、地域の方々の協力が不可欠であり、皆さんと一緒に心地よい環境を保持・継続することは、循環型社会の実現とともに、更なる地域の活性化にも繋がると考えています。

次に、新島さんの「ごみ処理場について」ですが、現在、国内の可燃ごみの処理方式は、コークスなどの原料とともに1800度の高温で溶かす「溶融方式」と言われる方式も一部ありますが、 ほとんどの自治体では「焼却方式」を採用しています。

熊谷市には、市内 2 カ所に可燃ごみの処理施設があり、処理により発生した熱エネルギーを隣接する福祉施設へ供給していますが、一方で二酸化炭素の排出を伴うことも事実です。

熊谷市を美しく住みやすいまちにするために重要なことは、私たち一人一人がごみの減量化などについて理解を深め、ごみそのものを削減していくことだと考えています。皆さんも日常生活の中で、環境美化意識を養っていただくようにお願いします。

環境部長

続きまして、紺野凛人議員さんの「グリーンカーテンの活用について」お答えします。

近年、地球温暖化をはじめとした環境問題が世界における大きな課題の一つとなっています。熊谷市においても、熊谷市脱炭素ロードマップや地球温暖化対策実行計画を通して温室効果ガス削減に向けた目標値を定め、地球温暖化防止対策に取り組んでいます。

グリーンカーテンには、植物の葉による遮光と、蒸散作用という、吸収した水を蒸発するときに気化熱を奪い、周囲の温度を下げる効果に加え、果実の収穫や鑑賞など、身近な植物に触れ合うことにより心がなごむ心理的な効果あります。

熊谷市では、今年も、市役所の江南庁舎や妻沼庁舎、中央公民館、また、全ての小中学校でグリーンカーテン事業に取り組んでいます。そのほか、熊谷市が開催するエコライフフェアというイベントでは、ゴーヤの苗を配布し、街なかにグリーンカーテンを広められるように努めています。

環境問題に対して、私たちができることを考え、行動することは、とても大切なことだと思います。これからも皆さんと一緒に取組を続けていきたいと考えています。

続きまして、中山知輝議員さんの「太陽光パネルについて」お答えします。

太陽光発電設備は、平成24年に始まった、国の再生可能エネルギーの固定価格買取制度が開始されたことを契機として普及が進みましたが、その一方で土砂の流出や森林破壊などの自然環境や景観への影響、動植物の生育環境の悪化等、様々な問題が生じています。

熊谷市では、平成31年に「熊谷市太陽光発電施設等の設置に関するガイドライン」を作成しましたが、強制力が無いこと等により課題が生じていたことから、昨年度、「熊谷市太陽光発電設備の適正な設置及び管理等に関する条例」を新たに制定しました。

条例では、設置者に対し、自然環境の保護に気を付けていただくと同時に、そこに住まわれている皆さんの設置に対する同意を求めています。また、景観への具体的な対応方法としては、周辺の環境と調和する色彩のパネルを使用することや、道路に接する場合には、見通しの妨げにならないよう、境界から後退させて設置することなどを定めています。そのため、パネルそのものの色は、黒を基調とした落ち着いた色がほとんどだと思います。

太陽光発電の普及は脱炭素社会の実現に向けた重要な施策ですので、自然環境とのバランスを考慮した環境づくりを進めていきたいと考えています。

続きまして、大江百花議員さんの「ごみの収集について」お答えします

熊谷市の資源物の収集はカンを例に申し上げると 4 週に 1 回となっています。収集日を増やすことで、利便性の向上や、リサイクル率のアップに繋がる可能性はありますが、

収集 運搬費用の増加や、ごみの捨てやすさから、ごみそのものが増えてしまうことも考えられます。

そこで熊谷市では、リサイクルに関する取組を行っており、小中学校の PTA や自治会の皆さんがカンやビン、紙類などの資源物を回収した際に、その量に応じてリサイクル活動推進奨励金を交付し市民のリサイクル活動を応援しています。

また、廃棄する雑紙を集めていただいた方に、リサイクルされたトイレットペーパーを配布する雑紙回収キャンペーンを開催し、好評をいただいています。

しかしながら、令和 5 年度の熊谷市のリサイクル率は 20.1%であり、熊谷市一般廃棄物（ごみ）処理基本計画における令和5年度の中間目標である 24.2%に届いていないことから、さらなる周知・啓発などが必要と考えています。中学生の皆さんも、身近なリサイクル活動に、これまで以上の御協力をお願いします。

続きまして、金子龍乃介議員さんの「ごみ問題について」お答えします。

熊谷市では、各自治会に環境美化推進員を委嘱し、ごみ分別の啓発や 5R（ファイブアール）を推進していますが、ポイ捨て等の不法投棄は後を絶ちません。ごみのない美しい熊谷市を維持するためには、5R の推進を基盤とした環境美化意識の醸成や、地域コミュニティとの継続的な協力が重要であると考えています。

そこで、春と秋には環境美化推進員を中心に 530 運動を実施し、快適な生活環境を保持していただいています。また、江南地区ではウォーキングとごみ拾いを合わせたイベントも開催しています。

提案をいただいた、ごみ拾いのイベントはポイントの付与を併せた、ユニークなアイディアであり、大変面白い取組であると思いますので、熊谷市のポイント制度の研究の中で参考にさせていただきたいと思います。

続きまして、新島陸生議員さんの「ごみ処理場について」お答えします。

現在、熊谷市では、深谷市・寄居町と共に「大里広域市町村圏組合」を設置し、ごみ処理事業などを共同で行っており、可燃ごみの処理施設については安定性や信頼性の他、環境への負荷が少なく、エネルギーを効率的に回収できるなどの理由から、「焼却方式」を採用しています。

この「焼却方式」は、国内の導入数が最も多く、 信頼性の高いものですが、あくまで可燃ごみの焼却処理施設です。不燃ごみやペットボトルを無理やり燃やすことは、余計なエネルギーを消費し、必要以上に二酸化炭素が排出され、地球温暖化に影響を及ぼすことが心配されます。

可燃ごみ、不燃ごみ、資源になるものなどをきちんと分別し、可燃ごみについても余計な水分を取ってから排出することなどが大切です。

中学生の皆さんも、日常生活におけるごみの排出についてぜひ意識してみてください。

【質問】 質問番号6　産業振興部関係

議席番号20　富士見中学校　荒木（あらき）　優人（ゆうと）　議員
ぐるり熊谷市

僕の家の近くでは、お客がほとんどいないお店や閉店してしまったお店がいくつかあり、そのようなお店を見ると心を痛めてしまいます。地域が明るくにぎわってほしいなと思います。そこで僕は岡山県の奉還町で行われた「ぐるり奉還町」のように、参加店のレシートを別の参加店に見せるとサービスや特典を受けられるイベントを行うことを提案します。それにより、人気のあるお店が他のお店を紹介し合うことによって地域の商業の活性化にもつながると思います。

議席番号21　大麻生中学校　濵本（はまもと）　留衣（るい）　議員
熊谷市の名物について

熊谷の名物と言えば、熊谷うどん、五家宝などがあります。しかし、これらの名物はあまり食べる機会がありません。小中学校では給食でたまに出て来ますが、食べられる場所は少ないように思います。

そこで、熊谷市内のコンビニやスーパーで売るのはどうでしょうか。コンビニやスーパーで売れば、多くの人が手に取ってくれると思います。そして、今より多くの人に熊谷市の名物の魅力を知ってもらえると思います。ご検討をお願いします。

議席番号22　大麻生中学校　柳沢（やなぎさわ）　湊太（そうた）　議員
ご当地グルメの周知について

私は、熊谷市で出る給食の中で「五家宝」などのいわゆるご当地グルメを食べられることは、地元理解や地元愛を育むのに、とても良いことだと思っています。そこで、様々なイベントでご当地グルメを紹介する機会を増やし、その良さを知ってもらうのはどうでしょうか。

議席番号23　別府中学校　戸塚（とづか）　詩葉（ことは）　議員
くまがやモンブランの開発

私は、モンブランが大好きです。そこで、江南では栗がたくさん採れるということを聞きました。熊谷には、雪くまや五家宝、うどんなどの名物がありますが、スイーツと言いきれる名物は少ないと思います。なので、栗がたくさん採れるという長所をいかして、新たに熊谷の名物として「くまがやモンブラン」を開発していくのはどうでしょうか。ご検討よろしくお願いします。

議席番号24　奈良中学校　秋好（あきよし）　翼（つばさ）　議員
田んぼを燃やすことについて

毎年稲刈りの時期になると、稲刈り後にわらなどを燃やす方が多く見られます。燃やすときに出る灰や煙は人体に害があります。特に赤ちゃんやお年寄りのいる家庭にとっては大きな影響があると思います。何より環境に悪影響を与えるのではないでしょうか。そこで、田んぼを燃やす時は市からの許可を得てから行うことを提案します。燃やす場合には風の強さなどの天候に配慮してから日程を決め、近隣の住民に予告し、燃やす範囲の規制なども行うことで、少しずつ環境や近隣の人への害を減らすことができると思います。熊谷市では田んぼを燃やすことについて、どのような取組をしているのかもお聞きしたいです。

【答弁】 産業振興部関係

市長

荒木優人議員さん、濵本留衣議員さん、 柳沢湊太議員さん、戸塚詩葉議員さん、秋好翼議員さんの質問に、 私から全般的にお答えします。

はじめに、荒木さんの「ぐるり熊谷市」ですが、 市内のお店、特に個人商店では、店主の高齢化やインターネットショッピングの拡大による消費行動の変化により、経営は厳しい状況ですが、市内のお店で、皆様にお買い物していただくと、地域経済の活性化や経済の循環に繋がります。

そのため、市内の大型商業施設とのコラボイベントを実施していますが、荒木さんから提案のあったイベントも含め、市内のお店を巡ってもらい、買い物をしてもらえる方法を引き続き検討し、市内の商業の活性化につなげていきたいと思います。

次に、濵本さんの「熊谷市の名物について」 ですが、「熊谷うどん」、「五家宝」のほか、「妻沼のいなり寿司」、「雪くま」、「フライ」、「ホルモン」などのグルメは、熊谷市の名物として、YouTube 等により、PRしていますが、コンビニやスーパー等の身近なお店で販売することが出来れば、より多くの方々に手に取っていただける機会が増え、熊谷名物としての認知度がさらに向上することになりますので、店舗に置いていただけるような工夫や働きかけを考えていきたいと思います。

次に、柳沢さんの「ご当地グルメの周知について」 ですが、濵本さんにお答えしたとおり、熊谷市には、古くからの産業と風土に根差した名物と呼べる多くのグルメがあります。「五家宝」や「妻沼のいなり寿司」は、文化庁の 100 年フードにも認定されています。

熊谷グルメの素晴らしさを、知っていただけるよう、多くの方々がお越しになるイベントのほか、今年度中に、熊谷駅に開設する観光案内所や数年後に池上地区に完成する道の駅等での積極的なPRを検討していきます。

次に、戸塚さんの「くまがやモンブランの開発」についてですが、熊谷市の江南地区では、 昔から栗の生産が盛んで、「利平栗」や「赤栗」、「ぽろたん」などの様々な品種が栽培されています。

栗を材料にしたスイーツの代表ともいえる戸塚さんが大好きなモンブランについては、市内飲食店や製菓店ごとに、独自の商品開発を行っており、お店の中には「熊谷産」の栗の使用をアピールしているところもあります。

そのようなお店と協力して、「くまがやモンブラン」も含め、熊谷特産の栗をPRできるように取り組んでいきたいと考えています。

次に、秋好さんの 「田んぼを燃やすことについて」にお答えします。

市内の多くの農地では、お米や麦の栽培が行われ、稲刈りや麦刈りの後になると、農家の方々がわらの焼却を行うことがあります。この焼却については、廃棄物の処理等に関する規制の対象外となっているものですが、秋好さんの質問のとおり、お年寄りや小さなお子様の健康への影響が心配されます。

熊谷市としては、これまでも農家の方々に対して、 わら焼却を行う際の配慮や、田んぼへのすき込み等を奨励してきましたが、 引き続き、効果的な方策を検討したいと考えています。

産業振興部長

続きまして、荒木優人議員さんの「ぐるり熊谷市」にお答えします。

市内では、アズ熊谷、ティアラ 21、ニットーモール、八木橋の大型商業施設4館と市内専門店の 200 以上の店舗が合同で参加するお買い物デジタルスタンプラリーが、今月 11 日まで開催されていました。

これは、対象店舗を御利用いただいて、デジタルスタンプを集めると、集めたスタンプの数や種類に応じて賞品がもらえるものです。

対象店舗での買い物に加え、埼玉パナソニックワイルドナイツ関連施設に立ち寄ることでスタンプを獲得できるなど、市内店舗の回遊を促進しています。

熊谷市では、こうした大型商業施設と市内専門店の連携・協力による魅力づくりを推し進めるとともに、荒木さんからの提案も含め、様々な工夫をしながら、市内店舗のPR方法を検討し、商業の活性化につなげていきたいと考えています。

続きまして、濵本留衣議員さんの「熊谷市の名物について」にお答えします。

熊谷市には、「五家宝」や「妻沼のいなり寿司」のほか、小麦の産地として昔から親しまれてきた「熊谷うどん」や「フライ」、ご当地かき氷「雪くま」などのグルメが数多くありますが、これらの名物について、普段は口にする機会が少ないかもしれません。

そこで、提案のとおり、コンビニやスーパーで取り扱ってもらえれば、日常的に多くの方々の目に触れ、口にする機会も増えて、魅力を伝えることができることでしょう。

また、消費が増えれば、これらの名物グルメをつくる方々にとっても励みとなり、新しい商品開発につながるなど、相乗効果が生まれると思います。

しかしながら、どの商品を取り扱うかは、お店の売り上げに関わる重要な問題ですので、どのような方法で店頭に並べていただけるか、コンビニやスーパーの関係者に相談してみたいと思います。

濵本さんも、コンビニやスーパーで 熊谷市の名物を見かけた際には、 無理のない範囲で購入を検討してください。

続きまして、柳沢湊太議員さんの「ご当地グルメの周知について」にお答えします。

ご当地グルメなど、「食」をテーマにした情報は、多くの方々にとって、興味ある話題のひとつです。

今年も、熊谷グルメのファンを増やすことを目的として、「熊谷肉汁うどん」と「雪くま」のスタンプラリーを実施したところ、多くの方々に市内のお店を巡っていただき、好評のうちに終了しました。

現在も、SNS等を活用した情報発信を行っていますが、柳沢さんからの提案のように、多くの人が集まるイベントでのPRは、その魅力を直接伝えることが出来る絶好の機会であると考えています。

熊谷市には、熊谷さくら祭、熊谷うちわ祭、熊谷花火大会、熊谷スポーツ文化公園で行われる各種スポーツイベントなどがあり、市内外から多くの方々がお越しになりますので、郷土のグルメの魅力を知っていただくとともに、市民の皆様には、熊谷プライドの創造と地元愛の醸成につなげられるように進めていきたいと考えています。

その際には、熊谷グルメの魅力を良く知る柳沢さんのような方々の手助けが必要になりますので、御協力をお願いします。

続きまして、戸塚詩葉議員さんの「くまがやモンブランの開発」についてお答えします。

熊谷市は、利根川と荒川の流れがもたらした肥沃な大地と快晴日数日本一という気候に恵まれ、妻沼地域の粘土質の土壌や、江南地域の丘陵地帯等それぞれの地域の特

性を生かして、様々な農産物が生産されています。 その中で、江南地域では、50 年以上前から栗の生産が行われており、現在では、高級品種で甘みの強い「利平栗」、 加工用に適した「赤栗」、渋皮がむきやすい「ぽろたん」などが栽培されています。

熊谷市では、熊谷市産の農産物の生産力向上やPRを積極的に行って農産物のブランド化を推進していますので、熊谷市産の栗の更なる知名度向上につなげるため、スイーツや栗の加工品を製造販売している飲食店や製菓店の方々と協力し、新たな熊谷の名物となりえるモンブランやスイーツを開発してもらえるよう取り組んでいきたいと考えています。

続きまして、秋好翼議員さんの 「田んぼを燃やすことについて」にお答えします。

野外での焼却は、「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」及び「埼玉県生活環境保全条例」で原則禁止とされていますが、農業、林業又は漁業を営むためにやむを得ないものとして行われる焼却については、この規制の対象外となっていますので、行政の許可は不要となっています。

しかしながら、農業も産業として周辺環境に配慮するとともに、地域と調和を図る必要がありますので、市では、わらの焼却を行わずに資源として有効活用していただくため、防災行政無線での呼びかけのほか、くまがや農業協同組合の協力による農業者へのチラシの回覧や、熊谷市農業委員会で発行している「農業委員会だより」等を通して、わらの焼却を自粛していただくように進めています。

市民の皆様が安心して生活できるような環境づくりへ配慮いただけるように、農業者の皆様に引き続き啓発していくとともに、 他の対応方法についても研究していきたいと考えています。

【質問】 質問番号7　都市整備部関係

議席番号25　吉岡中学校　森尻（もりじり）　穂高（ほたか）　議員

公園の熱中症対策について

現在、熊谷市では駅のミストやうちわ配布などの熱中症対策が行われていますが、それでも多くの人が熱中症で救急搬送されています。室内へ行けば涼しいですが、屋外では暑さをしのげる術がないのが原因だと思いました。

屋外でも快適に過ごせるよう、市内の公園で熱中症対策などを行ってはどうでしょうか？

【答弁】 都市整備部関係

市長

森尻穂高議員さんの質問に、私から全般的にお答えします。

今年の夏は過去に例を見ない暑さとなりました。熊谷市も熱中症対策として、防災行政無線等を通じて注意喚起を行っていますが、一人一人が暑い日の外出を控えること、こまめに水分補給をすること、帽子や日傘を活用することなど、こうした対策を意識していただき、市民の皆さんと一丸となって熱中症対策に取り組んでいきたいと考えています。

また、公園には、暑さをしのぐ場として樹木の日陰や四阿（あずまや）、一部にはクールシェアスポットなどがありますので、外出時に暑さを感じた際には、ぜひ利用していただきたいと思います。

都市整備部長

続きまして、森尻穂高議員さんの「公園の熱中症対策について」にお答えします。

全国的に夏の平均気温は上昇しており、厳しい暑さを感じる日が増えてきています。

これまで熊谷さくら運動公園では、クールシェアスポットの設置やテニスコートの日陰創出事業、ミストシャワーの設置等行ったほか、市民の皆様が涼むことができ、水に親しめる憩いの場として水辺環境を整備する事業を進めています。

また、公園にある日陰は屋外の暑さを緩和する役割を果たしています。森尻さんの意見を参考に、他の公園でも日陰を創出した事業など、公園が多くの方にとって快適で、安らぎや憩いの場となるような整備、維持管理に努めていきたいと考えています。

【質問】 質問番号8　建設部関係

議席番号26　大原中学校　匿名希望　議員

冠水しやすい道路について

私が通っている学校のすぐ近くに、少し雨が降っただけで水路から水があふれ、冠水してしまう道路があります。同じ状態の道路は市内の他の場所にもあると思います。すでに冠水注意の看板やハザードマップなど大人には周知をしてもらっています。しかし、私たち子どもたちにも目で見て分かるように冠水しやすいところに冠水の危険がわかるようなメーターを設置するなど注意を呼びかける設備を増やすことが必要だと考えます。

議席番号27　中条中学校　明智（あけち）　悠太朗（ゆうたろう）　議員

きれいな道路で安全に通学

僕の通学路には、道路の端は少し崩れているところがあります。熊谷市の景観をより良くし、安全に通学したいと思います。そのために、市役所に、道が崩れたときに相談できる窓口を作ったり、すでにある、道路が崩れていたところを写真に取って投稿するアプリをもっとアピールすれば良いのではないでしょうか。

議席番号28　大里中学校　村松（むらまつ）　那音（なお）　議員

事故を防げるカーブミラー

自分たちの通学路に直前まで車が来ているのかどうか分からない場所があります。カーブミラーを見ても、草や家の塀で見えづらくなっています。なので、カーブミラーの位置を変えて事故が起こりづらいようにしてほしいです。また、冬はミラーが曇ってしまいほぼ見えないので、曇りにくい素材にしてほしいです。

【答弁】 建設部関係

市長

【匿名希望】議員さん、明智悠太朗議員さん、村松那音議員さんの質問に、私から全般的にお答えします。

はじめに、【匿名希望】さんの「冠水しやすい道路について」ですが、熊谷市では、道路に雨水があふれないように、道路側溝や熊谷市が管理する準用河川の改修など雨水を処理するための施設の整備を行っています。

さらに、国や県に対しては、荒川や利根川などの大きな河川の堤防強化や調整池の整備などの働きかけも行っています。

次に、明智さんの「きれいな道路で安全に通学」 についてですが、熊谷市が管理している市道では、1年間で約 2,400 件の相談や要望、アプリによる投稿があり、その他にも職員が毎日パトロールをして、約 4,500 件の補修を行っています。

このように市民の皆さんからの通報や投稿によって、道路の傷んだ箇所を早期に数多く直すことができていますので、引き続き、皆さんが安心して安全に通行できる道路の維持管理に努めていきます。

次に、村松さんの「事故を防げるカーブミラー」ですが、カーブミラーは、交差点や急カーブなどの見通しの悪い場所で、車の運転手から他の車が見えない危険な箇所に設置しています。

そのため、自転車や歩行者が安全に通行できるように、車の運転手に対して、注意喚起として歩行者注意などの文字の標示や、危険な交差点にはオレンジ色のラバーポールを設置し安全対策を行っています。

これからも、皆さんが、交通事故に遭わないように交通ルールを守ることをお願いするとともに、道路の安全対策を進めていきます。

副市長

続きまして、【匿名希望】議員さんの「冠水しやすい道路について」にお答えします。

熊谷市では、道路に雨水があふれないように毎年、多くの道路や水路の改修工事を行っています。

さらに、その水路等の下流となる準用河川の改修も行っています。また、学校の校庭などに雨水を一時的に溜める施設や道路に溜まった雨水を地下に浸透さ せる施設の整備なども行っています。それでも、局地的な豪雨などによって、通行自体が危険な道路冠水の場合には、道路を閉鎖するなどの対応をしています。

道路冠水が頻発しているところへ水位計などの設置については検討していきますが、冠水 道路や増水時の水路は危険なため、決して近づかず、安全に登下校してください。

また、全戸配布しているハザードマップについては、中学生の皆さんが見てもわかると思いますので、通学路などの浸水想定状況や避難所の位置を、ぜひ確認してみてください。

建設部長

続きまして、明智悠太朗議員さんの「きれいな道路で安全に通学」についてお答えします。

通学路の端が崩れている、道路に穴が空いている等の道路の不具合については、市役所の維持課が相談窓口になっています。

また、熊谷市が管理している市道の総延長は、約 2,400 ㎞で、北海道から沖縄を直線で結んだ距離と同じくらいの長さがあり、職員が毎日パトロールしていますが、損傷箇所の全てを把握するのは難しい状況のため、市民の皆様からの通報やスマホアプリ FixMy（フィックスマイ）StreetJapan（ストリートジャパン）を使った投稿により、少しでも多くの不具合を把握して対応できるように努めています。

このアプリの普及については、熊谷市ホームページに掲載してPRしています。

明智さんからも、ご家族やお友達に便利なアプリがあることをPRしていただき、多くの方々から投稿していただくことで、道路環境の改善に繋がっていくと考えています。

続きまして、村松那音議員さんの「事故を防げるカーブミラー」についてお答えします。

カーブミラーは、建物や塀等が原因で見通しの悪い交差点やカーブで、自動車同士が目視で確認が難しい場合に、衝突事故の防止を目的として設置しています。

また、カーブミラーには、特性として、映せない部分、いわゆる死角があり、歩行者や自転車・ 二輪車が、かえって危険になることもあります。

村松さん達の通学路に見えづらいカーブミラーがあるとのことですが、具体的な場所を市役所にお知らせください。

市内にはカーブミラーが約 5,500 基も設置されており、曇りにくいカーブミラーについては、以前にも同様の要望があったことから、現在試験的に設置して、その効果を検証しているところです。

カーブミラーは、あくまで安全確認の補助施設であるため、目視での安全確認を確実に行い、 村松さんも交通事故に遭わないように気を付けて通学してください。

【質問】 質問番号9　教育委員会関係

議席番号29　熊谷東中学校　原口（はらぐち）　夏希（なつき）　議員

学校での食品ロス

みなさん、学校でどのくらいの残飯が出ているのか知っていますか。私の学校でも毎日たくさんのご飯が残されています。

そこで、給食委員やセンターが残されてしまった量に合わせて調節できるようにするのはいかがでしょうか。また、残ってしまったご飯を捨てるのではなく、熊谷市にあるこども食堂などに寄付するのはいかがでしょうか。食品ロスも減り、より多くの人が助かると思います。

議席番号30　大幡中学校　鯨井（くじらい）　菜月（なつき）　議員

食品ロスについて

近年では環境問題がさらに悪化している傾向です。その中でも食品ロスについてどう対策していくかについて考えました。

日本の食品ロス量は、年間約472万tから約523万tと推計されています。1人当たり年間約38kgから64kgとされています。すこしでも食品ロス量を減らすために、学校では、総合の時間に授業したり、野菜などの好き嫌いの克服のため家庭科の授業で野菜を育てたり、調理して食べたりするのはどうでしょうか。

議席番号31　妻沼東中学校　井上（いのうえ）　心春（こはる）　議員

自転車通学での暑さ対策を

現在、酷暑と呼ばれるほどの暑さにより熱中症が増えています。学校の中は冷房が効いていますが、登下校は自転車通学のためヘルメットでの蒸れもあり、とても暑いです。

私が小学生のとき、熊谷市から日傘を配布していただきました。中学校では自転車通学になる人が多いため、首回りに巻けるものなど自転車でも使える暑さ対策グッズを配布したりすることは可能でしょうか。

議席番号32　中条中学校　山本（やまもと）　陽菜（ひな）　議員

荻野吟子さんを広めるには

渋沢栄一さんが新一万円札の顔となりました。そこで、私は日本初の女医になった荻野吟子さんをもっと多くの人に知ってもらいたいと思っています。現在は知っている人もいるのですが、詳しく知らない人が多いと思います。そんな人のために、熊谷市のマスコットキャラクターの「ニャオざね」とのコラボイベントをやってみてはいかがでしょうか。

【答弁】 教育委員会関係

市長

原口　夏希議員さん、鯨井　菜月議員さん、井上　心春議員さん、山本　陽菜議員さんの質問に、私から全般的にお答えします。

初めに、原口さんの「学校での食品ロス」についてですが、学校給食は、適切な栄養の摂取による健康の保持増進を図ることなどと学校給食法にその目的が明示されています。学校給食は、栄養のバランスを考え、調理、提供されますので、まずは、皆さんが給食を残さず食べることが大事だと考えます。

しかしながら、給食の食品ロスがあることも事実ですので、提案いただきました量の調節については、給食センターや自校式校の給食室でも検討してみたいと思います。

次に、鯨井さんの「食品ロスについて」ですが、近年、食品ロスが問題になっています。

鯨井さんの質問にもあったように、令和3年度の我が国の食品ロス量は推計で 523 万トンで、これは国連が飢餓に苦しむ人々への食糧支援の量の 1.1 倍に相当する膨大なものです。

また、食品ロスは、食糧の生産や廃棄に必要な天然資源やエネルギーの消費にもつながり、環境へ与える影響も少なくありません。

このような中、「食品ロスの削減の推進に関する法律」が制定されたことや、持続可能でよりよい世界を目指す国際目標である「SDGs」の推進には、食品ロスへの対策が欠かせませんので、授業や学級活動等の中で、食品ロスの削減について考え、学ぶ必要があると考えます。

次に、井上さんの「自転車通学での暑さ対策を」についてですが、熊谷市では、小・中学生の暑さ対策として、小学生にクールスカーフや日傘を配布したり、中学生に熱中症予防の授業や 防署職員による AED 講習を行ったりしてきました。

このような市として取り組んできた暑さ対策が、各家庭にも広まり、個々の登下校等の状況に合わせた暑さ対策ができるようになってきていると感じています。

井上さんの提案のとおり、暑い夏の登下校時の暑さ対策はとても大切なことですので、登下校時の熱中症予防について研究したいと思います。

次に、山本さんの「荻野吟子さんを広めるには」についてですが、荻野吟子さんは、日本で初めて医師国家試験に合格し、女性医師となった人です。また、新一万円紙幣の図案に採用された渋沢栄一と、吟子さんが女性医師になる拠所となった「令義解」を収録した「群書類従」をまとめた塙保己一と並ぶ、埼玉三偉人の一人でもありますので、吟子さんをより多くの人に知ってもらうため、積極的に情報発信していくことは、大切なことと考えています。私も市長として、名刺に吟子さんの写真と説明を入れ、名刺交換時に積極的にPRしていますし、全国に知ってもらうための一案として、テレビドラマ化も有効と考えています。

これからも、山本さんからの提案も参考にして、魅力の発信を進めていきたいと考えます。

教育長

続きまして、原口夏希議員さんの「学校での食品ロス」についてお答えします。

初めに、熊谷市の学校給食では、毎年、 約130トンの調理残渣が出ており、これは大きな食品ロスであると捉えています。学校給食は、基準栄養量が決められていて、それに基づいて栄養士が献立を作成しています。残った給食の寄附については難しいですが、栄養価を落とさないで全体の量を調節することも食品ロスの削減につながる考え方ですので、できることを考えてみたいと思います。学校においても、給食委員さんを中心に考えていただければと思います。

学校給食は、皆さんの体の成長に必要な栄養価を確保する上でとても大切なものです。まずは、残さずに食べていただければと思います。

続きまして、鯨井菜月議員さんの「食品ロス」 についてですが、学校では、子供達の発達の段階にあった「食育」を進め、「食」に対して興味・関心が沸くよう工夫しています。

また、熊谷市学校給食作品展に向け、給食の大切さを呼びかける作文や標語、ポスターの作成を通じて、食について学んでいます。

小学校では、家庭科の学習で「食生活」の学習をするだけでなく、学校栄養士や栄養教諭による「食育の授業」を実施したり、子供達が野菜を育て、収穫した野菜を調理して食べたりしている学校もあります。

中学校では、総合的な学習の時間を中心に 「SDGs」に関連した学習の一環で、食の大切さについて調べ学習を行ったり、生徒会活動で給食の残菜調査を行い、残菜の少ない学級を表彰したりする学校もあります。

鯨井さんの提案を受け、総合的な学習の時間や家庭科の授業で、野菜を育てたり調理して食べたりする等の活動を、各学校に紹介します。

続きまして、井上心春議員さんの「自転車通学での暑さ対策を」についてお答えします。

現在熊谷市で行っている、登下校時における熱中症対策ですが、小学校では、傘さし登下校の推奨、市内在住の小学生に熊谷市オリジナルの日傘を配布しています。その他には、児童に熱中症予防について話をしたり、のどが乾く前にこまめに水分補給するよう呼びかけたりしています。中学校では、教師による下校の見守りや、夏用体操服の半袖・ハーフパンツでの登下校、帽子の着用、徒歩通学生徒の日傘利用など、各学校で工夫して熱中症予防をしています。また、市内すべての中学校で、熱中症対策の講習や、応急処置や心肺蘇生の講習及び実習を行い、熱中症に関する基礎・基本を身に付け熱中症予防を行っています。

井上さんの提案のとおり、中学生の自転車通学におけるヘルメット着用は確かに熱中症になるリスクが高いと感じます。また、歩いて登下校している児童・生徒にとっても、熱中症予防のため、首回りを冷やすことはとても大切です。せっかくの提案ですので、予算も考え、どのようなものが暑さ対策として適当であるか、考えたいと思います。

続きまして、山本陽菜議員さんの「荻野吟子さんを広めるには」にお答えします。

山本さんも、マンガ「荻野吟子」などで御存じのとおり、荻野吟子さんは、日本で最初の公認女性医師となった人物であり、女性の地位向上や衛生知識の普及にも大きく貢献した、熊谷を代表する歴史的人物の一人です。

また、私たちの郷土熊谷出身の偉人の中でも、抜きんでた才能と不撓不屈の精神をもって偉業を成し遂げた素晴らしい人物であり、その生き方は私たちの手本であり、熊谷の誇りと言っても過言ではありません。

熊谷市では、「荻野吟子記念館」でのPRや、吟子さんのことを詳しく調べ直し、吟子さんに関する新事実を発見し、調査報告書にまとめる取組などを行っています。山本さんの提案は、吟子さんを知ってもらう取組として、参考になる良い提案であると考えます。

これからも、中学生の皆さんをはじめ、多くの人に、吟子さんの偉業や魅力を知ってもらい、新たな分野に果敢に挑戦してほしいと思います。